

高齢者の着装意識と生活意識の関連

——大学卒業生（60～70歳）の場合及び大学生との比較を通して——

鮎 田 崎 子・岡 田 奈 美

(被服学研究室)

(平成11年10月21日受理)

The Relationship between the Awareness of Clothing Oneself and the Sense of Living among People of Advanced Age

—— In the Case of University Graduates of Age Range 60~70
in Partial Comparison with University Students ——

Sakiko FUNADA and Nami OKADA

I 緒 論

わが国において、全人口に占める65歳以上の高齢者の比率が14%に達したのは1994年である。1998年9月には高齢化率16.2%を示し¹⁾、急速に高齢化が進んでおり、年金・医療・介護・住宅・雇用・学習など、多方面から高齢者にとって安心できるシステムや環境づくりが早急な課題となっている。同時に、高齢者には、はりあいや生きがいのある積極的な生き方が望まれる。その中でも日常関わる被服の影響は、高齢者の生活においても多大であると考えられる。

被服を装う基体としての身体は加齢とともに変化していく。人体計測値の分析^{2) 3)} から若年期から高齢期への体型変化をみると高径項目の減少、周径項目の増加、バスト・ヒップ・ウエストの周径バランスの変化、体幹部形態の変容、BMIの増加傾向等が認められる。こうした著しい体型変化により、高齢者が求める衣料はJIS衣料サイズで対応しきれていない部分が多くなり、高齢者の身体特性に対応したモノづくり、環境づくりがなされなければならない状況にある。

高齢者側からの既製服に対する不満⁴⁾として、体型に適合するサイズがない、好きなデザイン・色・柄のものがなく、値段が高い、が挙げられており、サイズ面のみならず豊富な高齢者衣料の提供が望まれている。

被服を着装するということは人体生理の補助・人体の防衛・動作への適応など保健的な機能を果たすのみならず、満足感・安心感・自己高揚感など心理的效果をもたらす。人は幾つにな

っても若く、美しくありたいという気持ちを持っていたいものである。気力が衰え、全くおしゃれ心が消え失せていた人に、周囲の者がおしゃれ心を取り戻す働きかけをしたことによって生活態度や顔が輝いてきたという例がある⁵⁾。人は毎日被服を身につけて生活しており、被服の心身に及ぼす影響は大きいと思われるが、高齢者の着意識と生活とのかかわりについては明かになっていない面がある。

そこで、大学を卒業し、現在、松山に居住する60歳～70歳の男女が今、どのような着意識、生活意識を持っているかを調査し、その特徴と関連を明らかにして、高齢期を生き生きとしたものにするために衣生活の面から生活の質的向上を目指す手がかりを得たいと考えた。また、若者の着意識と生活意識の調査結果⁶⁾と比較することとした。若者と高齢者は急速に社会環境が変化する中で生活体験が異なる世代である。60歳～70歳の者は昭和前期の戦時社会、1945年の終戦前後の物質欠乏の時代を児童・生徒として体験し、青春時代は1950年代の社会復興期にあたる。1960年代の高度経済成長期には、化学合成繊維が産業生産され、既製衣料の大量生産、大量消費の時代となっていく。ファッションは、既製服時代へ、カジュアルへと転換していく。当時の若者は服装で自己主張するようになり、ミニファッション、ユニセックスファッション等が流行した。1970年代は低成長の時代。オイルショックによる素材問題、日米繊維交渉にみるように衣生活による日常性が、国際情勢という外圧とも連動していることを体験することになる。ジーンズファッションが日常生活の中に定着していく。T・P・Oつまり、時間・場所・目的に合った被服を選択して着装するようになり、ファッションの多様化、差別化の時代となる。安定成長期の1980年代以降、環境問題から省資源、省エネルギーの生活が問われている。ファッションのカジュアル化、コーディネート化がすすんでいる⁷⁾。現在、高度情報化、国際化、高齢化社会となり、ファッションは個性化、多様化、グローバル化にある。一方、大学生は、政治・経済は安定し、物質的に豊かな中で育ち、多様なファッションを自由に選択して着装できる時代の中にある。こうした、社会・経済・ファッション状況の異なる時代を実体験してきた、二世代間の着意識と生活意識とその関連性を比較検討することにより、高齢者と若者の特徴をより鮮明にすることができる。

II 研究方法

調査対象は、愛媛県松山市に居住する60歳以上の男性139名、女性140名、合計279人である。国立 E 大学卒業生の協力を得た。

平成10年7月から9月にかけて、郵送による質問紙法の調査を行なった。有効回収率は80.2%である。

質問内容は大学生に対するものと同様である。着意識に関する内容は、装う心を主体とした自己表現、他人意識、同調性、社会性、機能性、実用性、ファッション性、興味、満足度等24項目と被服の購入・選択・保管・廃棄に関する13項目を含む37項目である。生活意識に関しては、価値観、健康観、社交観、社会観、生活観、充実感等の17項目とした。各項目について、「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で回答を得た。

結果は、単純集計、クロス集計、因子分析、数量化Ⅱ類、数量化Ⅲ類、クラスター分析等の分析を行い考察し、有意性を明確にするために検定を行った。

Ⅲ 結果と考察

1. 回答者の属性

回答者の属性を年齢、職業、同居人数別に示すと表1となる。

60～64歳が62.0%，65～70歳が38.0%である。現在有職の者27.2%（内、常勤12.9%，パート4.3%，自営3.6%），無職の者が72.8%である。現在無職のうち、過去に仕事をしていた人が70.3%である。現在、常勤として働いているのは、男性20.1%，女性5.7%，過去に有職、今は無職の人は、男性56.8%，女性83.6%である。

同居人数（本人を除く）は、1人が最も多く55.2%で、2人（21.5%），3人

（9.3%）の順である。男性では、2～4人が女性に比べ多く、女性の一人暮らしが男性より多い。

2. 着装意識のプロフィール

各項目の評定に対し、4～1の評点を与えて資料とし、平均値、男女間の有意差t検定結果を示したのが図1である。

着装意識に関する項目で全体的に意識が高いのは、「着心地のよいものを着る」「動きやすい服装を好む」「着脱しやすい服を好む」「自分らしい服を着たい」「時間・場所・目的にあった服を着るよう心掛けている」「服の色に関心がある」「服を着ることは楽しい」「服装によって気分が変わる」である。意識が低いのは、「メーカーやブランドにこだわる」「流行の服をよく着る」「雑誌やテレビなどメディアからのファッション情報をよく見る」「人と同じような服装をしていると安心する」「他人からほめられたり、うらやましがられたりする服が着たい」「新しいタイプの服にチャレンジしてみたい」「自分にあうサイズの服が入手しにくい」「自分が着たい服が入手しにくい」である。

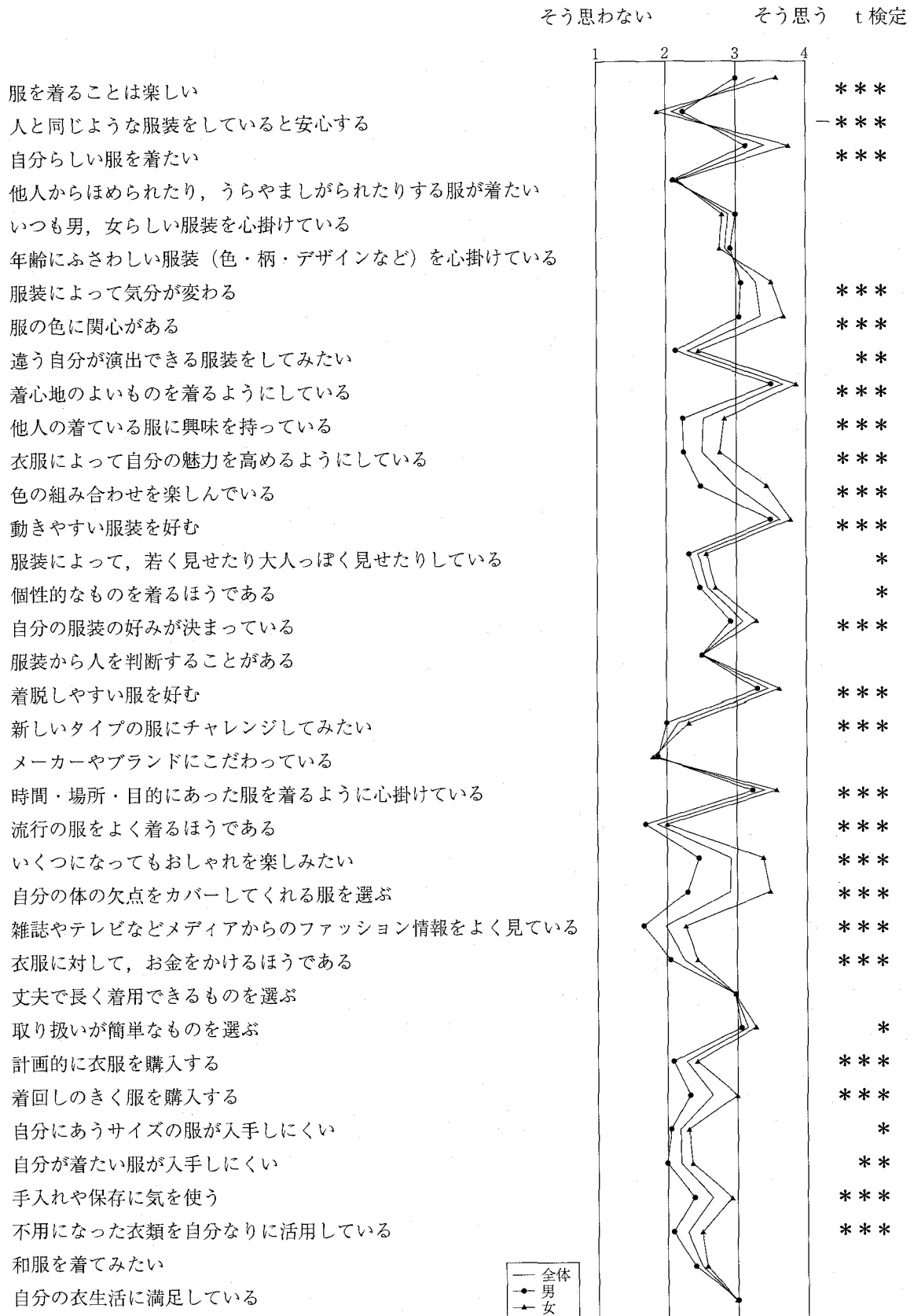
以上のことから、高齢者は、着心地のよさ、動きやすさ、着脱しやすさ等機能性を第一に重視している。機能性に関する3項目の標準偏差は、下位にあり、大多数の人が、機能性のある服装を望んでいることがわかる。さらに、時間・場所・目的をわきまえた服装、自分らしい服

表1 回答者の属性

人 (%)

区 分		合 計	男 性	女 性	
		279(100.0)	139(100.0)	140(100.0)	
年 齢	60～64歳	173(62.0)	73(52.5)	100(71.4)	
	65～70歳	106(38.0)	66(47.5)	40(28.6)	
職 業	あり 76 (27.2)	通 勤	36(12.9)	28(20.1)	8(5.7)
		パ ー ト	12(4.3)	9(6.5)	3(2.1)
		自 営 業	10(3.6)	6(4.3)	4(2.9)
		そ の 他	18(6.4)	13(9.4)	5(3.6)
	なし 223 (72.8)	過去に経験あり	196(70.3)	79(56.8)	117(83.6)
	過去に経験なし	7(2.5)	4(2.9)	3(2.1)	
同 居 人 数 ※	0人	20(7.2)	2(1.4)	18(12.9)	
	1人	154(55.2)	76(54.7)	78(55.7)	
	2人	60(21.5)	34(24.5)	26(18.6)	
	3人	26(9.3)	15(10.8)	11(7.9)	
	4人	8(2.9)	5(3.6)	3(2.1)	
	5人	7(2.5)	5(3.6)	2(1.4)	
	6人以上	4(1.4)	2(1.4)	2(1.4)	

※本人を除く人数を示す



男女間 t 検定 *** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05 —は男子優位を示す

図1 着装意識のプロフィール（全体・男・女）

装を楽しみ、流行やブランドへの関心は薄く、人と同じような服装をしていると安心するわけではないが、目立つ服装も望んでいない。合うサイズの服、着たい服の入手については、それほど困難でないという結果がでていますが、個々のばらつきがある。

男女間で有意差が認められ、女性優位28項目、男性優位1項目となる。「人と同じような服装をしていると安心する」のは男性優位であり、服装における人との同調意識は男性の方が高い。女性の意識が男性より特に高い項目から判断すると、女性は、衣服による身体欠点のカバー性を意識し、服色に関心があり、自分の魅力を高める自分らしい服を着て、おしゃれを楽しみ、着回しのきく服を選び、手入れや保管にも気を使うことにおいて男性より意識が高い。

次いで、着装意識24項目からなる構造を明かにするため、因子分析を行なった。固有値1.0以上で解釈可能なものを基準とし、男女各3因子を抽出した(表2-1, 2-2)。男性は第1因子「自己顕示と楽しさ」、第2因子「社会性」、第3因子「機能性」、女性は第1因子「自己演出と他人意識」、第2因子「着用の楽しさと快適さ」、第3因子「社会性」と解釈した。第1因子では、男女共、ファッション性を表わしているが、男性は着用を楽しんでいるのに対し、女性では、自分を他人に魅せようという意識がみられる。女性第2因子には、着用の楽しさが強くあらわれている。社会性は、服装の年齢に対するふさわしさや他人との調和を意識した項目から成っている。

表2-1 着装意識の因子分析結果(男性)

因子(累積寄与率)	項目	因子負荷量
第1因子 自己演出と楽しさ (32.1%)	いくつになってもおしゃれを楽しみたい	0.781
	色の組合せを楽しんでいる	0.762
	衣服によって自分の魅力を高めるようにしている	0.686
	服の色に関心がある	0.670
	違う自分が演出できる服装を試してみたい	0.668
	他人の着ている服に興味を持っている	0.657
	服装によって気分が変わる	0.653
	新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	0.651
	個性的なものを着るほうである	0.644
	服を着ることは楽しい	0.637
	自分らしい服を着たい	0.608
	服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	0.600
	時間・場所・目的にあった服を着るよう心掛けている	0.521
	メーカーやブランドにこだわっている	0.494
	他人からほめられたり、うらやましがられたりする服が着たい	0.484
流行の服をよく着るほうである	0.472	
自分の服装の好みが決まっている	0.419	
第2因子 社会性 (40.7%)	年齢にふさわしい服装を心掛けている	0.789
	いつも(男、女)らしい服装を心掛けている	0.710
	人と同じような服装をしていると安心する	0.425
	服装から人を判断することがある	0.415
第3因子 機能性 (46.3%)	動きやすい服装を好む	0.724
	着脱しやすい服を好む	0.650
	着心地のよいものを着るようにしている	0.641

表2-2 着意識の因子分析結果 (女性)

因子 (累積寄与率)	項 目	因子負荷量
第1因子 自己演出と他人意識 (23.2%)	服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	0.743
	衣服によって自分の魅力を高めるようにしている	0.691
	新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	0.684
	違う自分が演出できる服装をしてみたい	0.668
	流行の服をよく着るほうである	0.586
	いくつになってもおしゃれを楽しみたい	0.581
	他人の着ている服に興味を持っている	0.548
	個性的なものを着るほうである	0.534
	他人からほめられたり、うらやましがられたりする服が着たい	0.509
	メーカーやブランドにこだわっている	0.480
第2因子 着用の楽しさと快適さ (31.1%)	色の組合せを楽しんでいる	0.616
	服の色に関心がある	0.616
	着心地のよいものを着るようにしている	0.609
	自分らしい服を着たい	0.587
	動きやすい服装を好む	0.503
	服を着ることは楽しい	0.444
	服装によって気分が変わる	0.396
	時間・場所・目的にあった服を着るよう心掛けている	0.390
自分の服装の好みが決まっている	0.383	
第3因子 社会性 (37.8%)	年齢にふさわしい服装を心掛けている	0.547
	人と同じような服装をしていると安心する	0.511
	いつも (男, 女) らしい服装を心掛けている	0.511
	着脱しやすい服を好む	0.409
	服装から人を判断することがある	0.391

3. 生活意識のプロフィール

生活意識は、全体的に非常に高い (図2)。特に高いのが「心許せる人 (家族・友人など) がいる」「世の中の動きに興味がある」「規則正しい生活を心掛けている」「普段の生活の中で生きがいや充実感を感じる」「自分の納得のいく生き方をしている」「環境問題に対してできることから取り組んでいる」である。比較的低いのは、「今、購入したいものがある」「趣味や遊びにお金や時間をかけている」である。今回の調査対象者は、人間関係において、特に身近に信頼できる人がおり、地域や仲間、友人などとのコミュニケーションも大切にしている。自分自身の生活や生きがい、生き方など精神的な充実こだわっており、自分自身のことを考えた生活を送っている。さらに、世の中や環境に対しても興味を持ち、働きかけようとしている。購入したいものがあまりなく、物質的に満足し、生活に満足している。

以上から、高齢者は、何に対しても積極的な生活をし、今の生活に充実感・満足感を感じている。60歳代は、身体機能は低下していく時期だが、精神的には非常に成熟した時期であるといえる。

男女間に有意差が認められたのは10項目で、女性が優位である。「物質的に満足している」「身の回りのものに個性や好みを反映させている」「心許せる人がいる」「人とコミュニケーションをとることが好き」「普段の生活の中で生きがいや充実感を感じる」「友人、仲間、近所の人との付き合いは多い」の男女差が大きい。特に人間関係に関する女性の意識が高い。

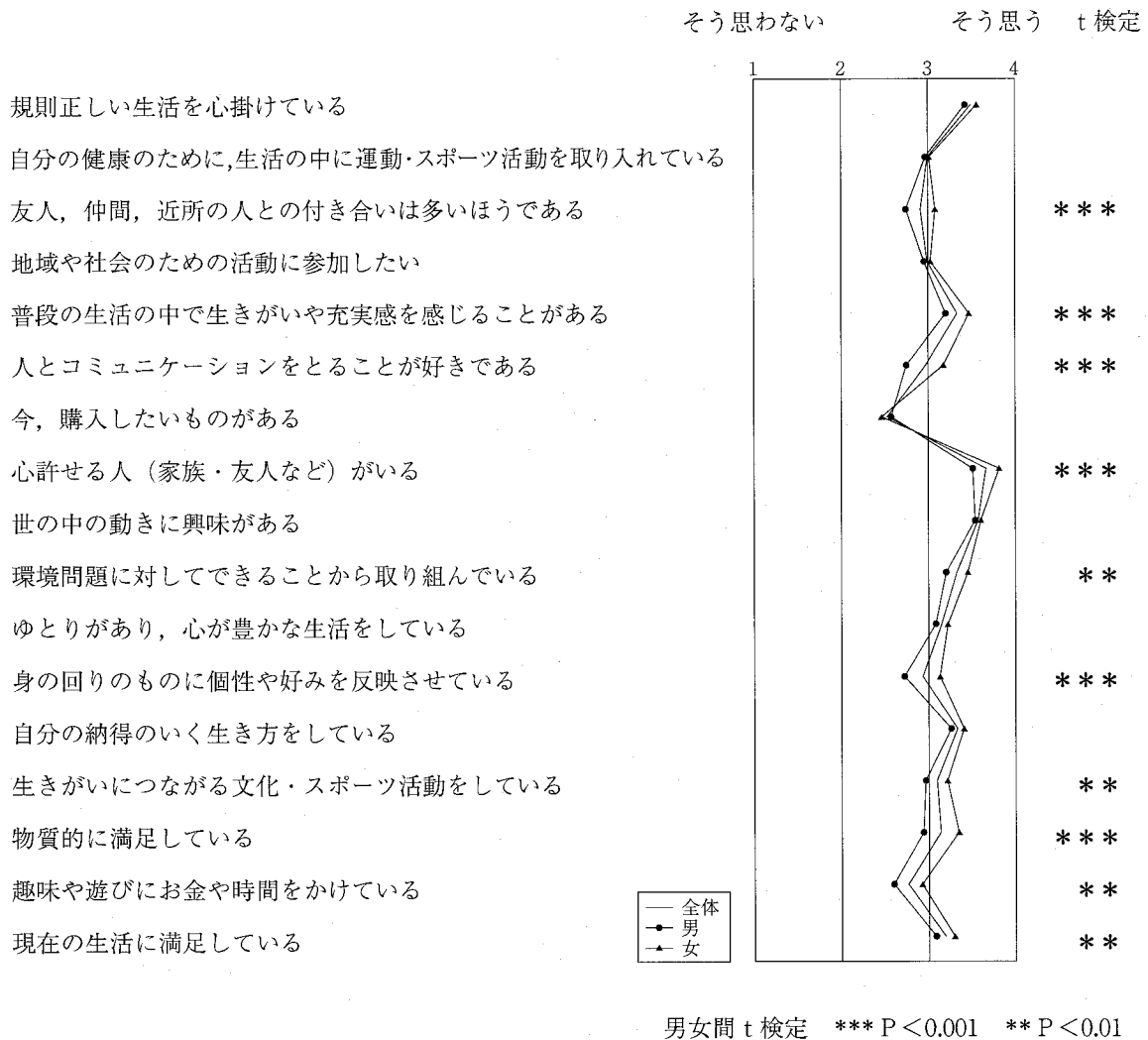


図2 生活意識のプロフィール（全体・男・女）

4. 「着装の楽しさ」に関わる意識

服装に関して快の感情を持っているかどうかは、毎日の暮らしに関わることなので重要なことと考える。

「着装の楽しさ」の意識に、強く関わっている条件を明かにするため、「服を着ることは楽しい」の思う（やや思うを含む）群とそう思わない（あまりそう思わないを含む）群を外的基準とし、他の着装意識36項目、生活意識17項目を説明変数として、男女別に数量化Ⅱ類による分析を行い、偏相関係数0.1以上を示すものを深く関わる項目として取り上げた。表3には、その条件に合う項目のみを関係の高い順に列記し、関係を示すカテゴリーを示している。数量化Ⅱ類分析については以後、同様に取り扱い、表示する。

「服を着ることは楽しい」と男性は69.8%、女性は93.6%が意識しており、女性が優位に差異がある（図3）。

「服を着る楽しさ」に関与している着装意識は、男性は「他人の着ている服に興味を持っている」「自分らしい服を着たい」「色の組合せを楽しんでいる」「自分が着たい服が入手しにくい」「違う自分が演出できる服装を試してみたくない」「人と同じような服装をしていると安心す

表3 「服を着ることは楽しい」と関係ある着装意識・生活意識項目
—数量化Ⅱ類分析結果—

着 装 意 識 項 目		カテゴリー	
男	他人の着ている服に興味を持っている	○	
	自分らしい服を着たい	○	
	色の組合せを楽しんでいる	○	
	自分が着たい服を入手しにくい	○	
	違う自分が演出できる服装をしてみたい	×	
	人と同じような服装をしていると安心する	○	
	取り扱いが簡単なものを選ぶ	×	
	自分の服装の好みが決まっている	×	
性	服の色に関心がある	○	
	衣服に対して、お金をかけるほうである	○	
	服装によって気分が変わる	○	
	自分のからだの欠点をカバーしてくれる服を選ぶ	○	
	年齢にふさわしい服装を心掛けている	×	
女	自分らしい服を着たい	○	
	自分のからだの欠点をカバーしてくれる服を選ぶ	×	
	いくつになってもおしゃれを楽しみたい	○	
	色の組合せを楽しんでいる	○	
	衣服に対して、お金をかけるほうである	○	
	他人の着ている服に興味を持っている	○	
	自分にあうサイズの服が入手しにくい	×	
	服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	×	
	服装から人を判断することがある	○	
	メーカーやブランドにこだわっている	×	
性	着心地のよいものを着るようにしている	○	
	着回しのきく服を購入する	×	
	生 活 意 識 項 目		カテゴリー
	男	人とコミュニケーションをとることが好きである	○
規則正しい生活を心掛けている		×	
自分の納得のいく生き方をしている		×	
性	現在の生活に満足している	○	
	ゆとりがあり心が豊かな生活をしている	×	
女	自分の健康のために、生活の中に運動・スポーツ活動を取り入れている	○	
	地域や社会のための活動に参加したい	○	
	今、購入したいものがある	○	
	自分の納得のいく生き方をしている	○	
性	友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうである	×	
	身の回りのものに個性や好みを反映させている	○	
	生きがいにつながる文化・スポーツ活動をしている	×	

注 関係あるカテゴリー：○そう思う ×思わない

いる」「生きがいにつながる文化・スポーツ活動をしていない」の6項目である。

男性は、生き方や生活に対する内面的な充実よりも人とコミュニケーションをとることが好きで、運動・スポーツ活動をして生活に満足している意識が関わっている。

女性は、人間関係や文化・スポーツ活動に活発でないが、納得のいく生き方をし、身の回り

る」などの13項目、女性は「自分らしい服を着たい」「自分のからだの欠点をカバーしてくれる服を選ばない」「いくつになってもおしゃれを楽しみたい」「色の組合せを楽しんでいる」「衣服に対して、お金をかける」「他人の着ている服に興味を持っている」「自分にあうサイズの服が入手しやすい」などの12項目である。

男性では、服色や他人の服に興味を持ち、自分らしさを表現し、服による身体欠点カバー性、着たい服の入手、衣服にお金をかける意識が関わっている。

女性では、色の組合せを楽しみ、自分らしい服を着用したいと思っており、他人の服に興味を示し、衣服にお金をかけ、身体欠点カバー性やサイズにおいて容易に購入できる環境が関わっている。

男女に共通しているのは、自分らしさを表現し、服の色に関心を示し、衣服にお金をかけて入手することである。取り扱いや着回しなど実用性の関わりは低い。男性は、他人に対する意識が、女性は自分を中心とした意識が特徴となっている。

「服を着る楽しさ」に関与している生活意識について、男性は「人とコミュニケーションをとることが好き」「規則正しい生活を心掛けていない」「自分の納得のいく生き方をしていない」「現在の生活に満足している」「ゆとりがあり心が豊かな生活をしていない」「自分の健康のために、生活の中に運動・スポーツ活動を取り入れている」の6項目、女性は「地域や社会のための活動に参加したい」「今、購入したいものがある」「自分の納得のいく生き方をしている」「友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうでない」「身の回りのものに個性や好みを反映させて

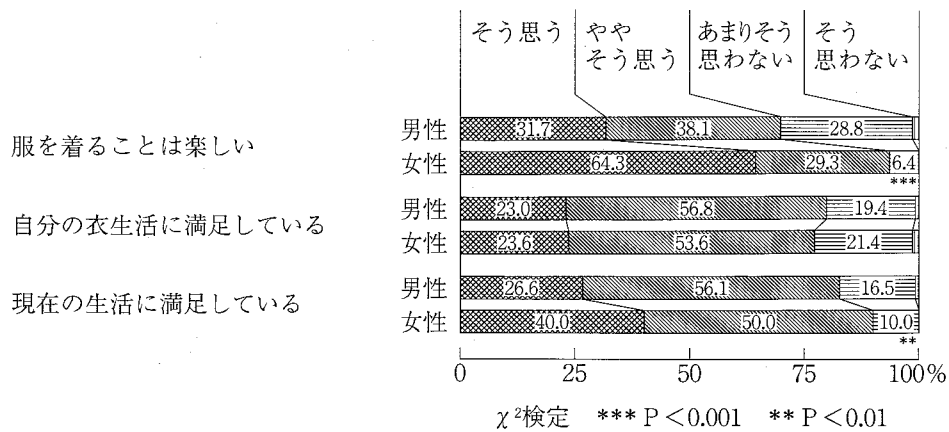


図3 着装の楽しさ、衣生活・生活の満足感の4段階評価結果（男女別）

のものへ個性・好みを反映させ、地域や社会のための活動に参加したいし、購入したいものがある等の意欲的な面が関わっている。

着装の楽しさに関わる生活意識の特徴として、男性では、活動的な面が、女性では、内面的な充実が挙げられる。

5. 着装意識の類型化、生活意識との関連—数量化Ⅲ類・クラスター分析結果

着装意識24項目への反応パターンをもとに数量化Ⅲ類による分析を行った結果、第1軸は、ファッション追求性—機能性の軸、第2軸は、社会性—個性の軸が析出された。これらの軸へのサンプル得点をもとに男女別にクラスター分析を行った結果、男女それぞれ4タイプに分類できた。さらに4クラスターと着装意識、生活意識とのクロス集計を行い、4タイプの特徴を分析した。表4-1、4-2はタイプ別にそう思う（ややそう思うを含む）と答えた割合及び構成比を示している。

1) 男性の類型化

(1) 着装意識のタイプ別特徴

タイプ1は、服装によって気分が左右され、自分らしい服で機能性、社会性を考えた服装をする。他のタイプに比べ、他人意識が高く、他人に魅せようとする。性別や年齢などのふさわしさ、他人の服への興味、流行やメーカー・ブランドへのこだわり、自己演出、身体欠点カバー性等においても、他タイプより高い意識を示す。周囲の目を意識しながら着装を楽しみ、ファッションに対して積極的である。衣生活の満足度も非常に高い。

タイプ2は、服装によって気分が左右され、自分らしい服で着装を楽しんでいる。機能性や社会性においても、意識が高く、特に、色に関心があり色の組合せを楽しみ、自分が着装を楽しむことにおいて、満足感を得ている。自分に合うサイズの服の入手は困難でないと感じており、衣生活の満足度も高い。

タイプ3は、着心地・動きやすさ・着脱のしやすさ等の機能性を重視して着装する。自分らしい服を着たいとしているが、ファッションや衣生活行動における意識はやや消極的である。

タイプ4は、実用性・社会性重視である。周囲と同じような服装を好み、同じような服装で安心感を持ち、社会的ふさわしさを考える。おしゃれやファッション、衣生活行動における意識は低い。

表4-1 各項目のタイプ別状況 (男性)

(%)

タイプ		タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4
構成比 人 (%)		41人 (29.5%)	22人 (15.8%)	49人 (35.3%)	27人 (19.4%)
項目					
1	服を着ることは楽しい	87.8	95.5	51.0	55.6
2	人と同じような服装をしていると安心する	68.3	0.0	2.0	100.0
3	自分らしい服を着たい	92.7	95.5	69.4	51.9
4	他人からほめられたり、うらやましがられたりする服が着たい	61.0	36.4	8.2	11.1
5	いつも (男, 女) らしい服装を心掛けている	87.8	77.3	57.1	70.4
6	年齢にふさわしい服装(色・柄・デザインなど)を心掛けている	87.8	68.2	59.2	74.1
7	服装によって気分が変わる	97.6	100.0	59.2	63.0
8	服の色に関心がある	95.1	100.0	63.3	44.4
9	違う自分が演出できる服装をしてみたい	58.5	50.0	0.0	7.4
10	着心地のよいものを着るようにしている	95.1	100.0	91.8	100.0
11	他人の着ている服に興味を持っている	68.3	54.5	12.2	11.1
12	衣服によって自分の魅力を高めるようにしている	65.9	54.5	4.1	3.7
13	色の組合せを楽しんでいる	70.7	90.9	22.4	11.1
14	動きやすい服装を好む	95.1	95.5	100.0	96.3
15	服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	68.3	68.2	12.2	7.4
16	個性的なものを着るほうである	68.3	68.2	26.5	14.8
17	自分の服装の好みが決まっている	90.2	86.4	57.1	63.0
18	服装から人を判断することがある	78.0	50.0	26.5	55.6
19	着脱しやすい服を好む	92.7	81.8	89.8	100.0
20	新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	34.1	36.4	2.0	0.0
21	メーカーやブランドにこだわっている	53.7	18.2	0.0	7.4
22	時間・場所・目的にあった服を着よう心掛けている	92.7	95.5	65.3	81.5
23	流行の服をよく着るほうである	31.7	4.5	0.0	0.0
24	いくつになってもおしゃれを楽しみたい	70.7	81.8	26.5	18.5
25	自分のからだの欠点をカバーしてくれる服を選ぶ	58.5	40.9	20.4	14.8
26	雑誌やテレビなどメディアからのファッション情報をよく見ている	31.7	27.3	2.0	3.7
27	衣服に対して、お金をかけるほうである	48.8	50.0	8.2	7.4
28	丈夫で長く着用できるものを選ぶ	78.0	72.7	59.2	88.9
29	取り扱いが簡単なものを選ぶ	85.4	72.7	79.6	88.9
30	計画的に衣服を購入する	51.2	72.7	10.2	22.2
31	着回しのきく服を購入する	61.0	50.0	30.6	33.3
32	自分にあうサイズの服が入手しにくい	36.6	13.6	20.4	29.6
33	自分が着たい服が入手しにくい	34.1	27.3	10.2	33.3
34	手入れや保管に気を使う	68.3	50.0	32.7	25.9
35	不用になった衣類を自分なりに活用している	26.8	40.9	30.6	25.9
36	和服も着てみたい	46.3	45.5	44.9	44.4
37	自分の衣生活に満足している	95.1	81.8	69.4	74.1
38	規則正しい生活を心掛けている	92.7	77.3	95.9	96.3
39	自分の健康のために、生活の中に運動・スポーツ活動を取り入れている	75.6	72.7	77.6	74.1
40	友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうである	63.4	63.6	46.9	55.6
41	地域や社会のための活動に参加したい	85.4	77.3	65.3	70.4
42	普段の生活の中で生きがいや充実感を感じることがある	95.1	90.9	83.7	100.0
43	人とコミュニケーションをとることが好きである	68.3	81.8	46.9	55.6
44	今、購入したいものがある	65.9	72.7	34.7	33.3
45	心許せる人(家族・友人など)がいる	100.0	100.0	98.0	88.9
46	世の中の動きに興味がある	100.0	90.9	91.8	92.6
47	環境問題に対してできることから取り組んでいる	90.2	90.9	81.6	88.9
48	ゆとりがあり心が豊かな生活をしている	85.4	81.8	87.8	85.2
49	身の回りのものに個性や好みを反映させている	85.4	81.8	38.8	37.0
50	自分の納得のいく生き方をしている	95.1	90.9	91.8	88.9
51	生きがいにつながる文化・スポーツ活動をしている	75.6	90.9	61.2	66.7
52	物質的に満足している	73.2	77.3	77.6	81.5
53	趣味や遊びにお金や時間をかけている	61.0	81.8	34.7	48.1
54	現在の生活に満足している	82.9	86.4	75.5	92.6

高齢者の着装意識と生活意識の関連

表4-2 各項目のタイプ別状況 (女性)

(%)

タイプ	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4
構成比 人 (%)	28人 (20.0%)	87人 (62.1%)	11人 (7.9%)	14人 (10.0%)
項目				
1 服を着ることは楽しい	96.4	96.5	100.0	64.3
2 人と同じような服装をしていると安心する	35.7	2.3	100.0	0.0
3 自分らしい服を着たい	100.0	97.7	100.0	85.7
4 他人からほめられたり、うらやましがられたりする服が着たい	82.1	26.7	27.3	7.1
5 いつも (男, 女) らしい服装を心掛けている	85.7	53.5	81.8	57.1
6 年齢にふさわしい服装(色・柄・デザインなど)を心掛けている	67.9	57.0	90.9	78.6
7 服装によって気分が変わる	100.0	91.9	90.9	57.1
8 服の色に関心がある	100.0	97.7	100.0	85.7
9 違う自分が演出できる服装をしてみたい	85.7	40.7	0.0	0.0
10 着心地のよいものを着るようにしている	100.0	98.8	100.0	100.0
11 他人の着ている服に興味を持っている	75.0	70.9	63.6	14.3
12 衣服によって自分の魅力を高めるようにしている	96.4	62.8	36.4	0.0
13 色の組合せを楽しんでいる	100.0	96.5	81.8	42.9
14 動きやすい服装を好む	100.0	97.7	100.0	100.0
15 服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	89.3	54.7	18.2	0.0
16 個性的なものを着るほうである	71.4	57.0	18.2	0.0
17 自分の服装の好みが決まっている	96.4	87.2	100.0	64.3
18 服装から人を判断することがある	89.3	46.5	72.7	14.3
19 着脱しやすい服を好む	96.4	88.4	100.0	100.0
20 新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	85.7	33.7	0.0	0.0
21 メーカーやブランドにこだわっている	67.9	2.3	18.2	0.0
22 時間・場所・目的にあった服を着よう心掛けている	96.4	96.5	81.8	92.9
23 流行の服をよく着るほうである	71.4	15.1	9.1	0.0
24 いくつになってもおしゃれを楽しみたい	100.0	91.9	63.6	35.7
25 自分のからだの欠点をカバーしてくれる服を選ぶ	100.0	89.5	100.0	78.6
26 雑誌やテレビなどメディアからのファッション情報をよく見ている	64.3	41.9	27.3	7.1
27 衣服に対して、お金をかけるほうである	75.0	37.2	45.5	7.1
28 丈夫で長く着用できるものを選ぶ	89.3	62.8	45.5	71.4
29 取り扱いが簡単なものを選ぶ	96.4	86.0	81.8	85.7
30 計画的に衣服を購入する	64.3	40.7	36.4	21.4
31 着回しのきく服を購入する	78.6	80.2	81.8	50.0
32 自分にあうサイズの服が入手しにくい	42.9	34.9	27.3	64.3
33 自分が着たい服が入手しにくい	46.4	39.5	36.4	64.3
34 手入れや保管に気を使う	89.3	68.6	72.7	50.0
35 不用になった衣類を自分なりに活用している	46.4	57.0	45.5	21.4
36 和服も着てみたい	60.7	58.1	36.4	21.4
37 自分の衣生活に満足している	89.3	81.4	45.5	57.1
38 規則正しい生活を心掛けている	100.0	96.5	100.0	92.9
39 自分の健康のために、生活の中に運動・スポーツ活動を取り入れている	64.3	70.9	54.5	57.1
40 友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうである	96.4	67.4	63.6	71.4
41 地域や社会のための活動に参加したい	85.7	69.8	81.8	35.7
42 普段の生活の中で生きがいや充実感を感じることがある	96.4	94.2	90.9	85.7
43 人とコミュニケーションをとることが好きである	100.0	81.4	63.6	50.0
44 今、購入したいものがある	60.7	45.3	45.5	21.4
45 心許せる人(家族・友人など)がいる	100.0	97.7	81.8	100.0
46 世の中の動きに興味がある	96.4	97.7	72.7	92.9
47 環境問題に対してできることから取り組んでいる	92.9	95.3	72.7	92.9
48 ゆとりがあり心が豊かな生活をしている	92.9	91.9	81.8	78.6
49 身の回りのものに個性や好みを反映させている	96.4	81.4	81.8	57.1
50 自分の納得のいく生き方をしている	100.0	90.7	90.9	78.6
51 生きがいにつながる文化・スポーツ活動をしている	75.0	84.9	81.8	85.7
52 物質的に満足している	92.9	89.5	90.9	92.9
53 趣味や遊びにお金や時間をかけている	85.7	76.7	63.6	50.0
54 現在の生活に満足している	92.9	89.5	90.9	92.9

(2) 生活意識のタイプ別特徴

タイプ1は、身の回りのものに個性を反映させたり、世の中や環境問題に対して、興味を持ち、周りに気を配り、人間関係にも積極的である。自分の生活に生きがいや充実感を感じ、生き方には納得している。生活の満足度も高い。

タイプ2は、人とコミュニケーションをとることが好きで、生きがいにつながる活動をしており、趣味や遊びにお金をかけるなど生活が非常に活発である。自分の生き方や生活に納得しており、環境問題への取り組みや地域社会活動への参加も積極的である。生活の満足度も高い。

タイプ3は、心許せる人がいるが、友人・仲間・近所の人との付き合いやコミュニケーションをとることは得意でない。規則正しい生活や健康のために運動・スポーツなどは行っているが、地域社会や生きがいにつながる活動、環境問題への取り組み、身の回りのものへの個性の反映などはやや低い。

タイプ4は、生活の満足度、物質的な満足度が高い。自分の健康管理を意識し、生きがいや充実感があり、精神的にも満足している。

各タイプの特徴を着装意識と生活意識から、次のようにまとめることができる。

タイプ1は、他人意識が高く自己顕示が強い。世の中、地域社会、身の回りへの意識が高い。着装意識、生活意識ともに積極的なタイプである。

タイプ2は、自分らしさを大切にし、自己表現する。着装意識、生活意識ともに自分を中心にした積極的なタイプである。

タイプ3は、機能性重視で着装する。着装意識、生活意識がやや消極的なタイプである。

タイプ4は、実用性・社会性重視で着装する。物質的・精神的に満足している。

2) 女性の類型化

(1) 着装意識のタイプ別特徴

タイプ1は、ファッション意識が高く、自分らしく、自分の魅力を高める服装を望んでいる。流行やメーカー・ブランドの服にこだわり、新しいタイプの服装や違う自分が演出できる服装をしてみたいと変身願望が強い。衣服にお金をかけ、計画的に購入し、手入れ・保管にも気を使う。衣生活にも満足しており、今後ともおしゃれを楽しみたいと思っている。全ての項目において、積極的なタイプである。

タイプ2は、自分らしさを追求した服装で、色に関心を持ち、機能性に優れているもの、組合せなどを楽しんでいる。不用になった衣類を自分なりに活用する意識はタイプ中一番高い。衣生活に満足感を持ち、ファッションに対してやや積極的なタイプである。

タイプ3は、人と同じような服装で安心感を持つ。他のタイプに比べると、性別・年齢のふさわしさを重視する。自分らしく、機能性の優れた服装など、好みが決まっている。自分らしさにこだわりをもち楽しんで着装している。衣生活の満足度は、どのタイプよりも低い。ファッションに対して、やや消極的である。

タイプ4は、着心地・動きやすさ・着脱のしやすさ・取り扱いの実用性を重視して着装する。流行に左右されず、自己演出や他人意識などは大変低い。衣服にお金をかけず、合うサイズの服や着たい服が入手しにくいと感じている。どのタイプより消極的な衣生活である。

(2) 生活意識のタイプ別特徴

タイプ1は、コミュニケーションをとることが好きで、人付き合いが活発であり、趣味や遊

びにお金をかける。環境にも興味を持ち働きかけようとしている。自分の生き方や生活面で精神的・物質的に充実しており、何事にも意欲的に取り組んでいる。生活の満足度も高い。

タイプ2は、タイプ1に近い。何事にも活発で外向的である。健康のためや生きがいになる活動を行っている。生活の満足度も高い。

タイプ3は、規則正しい生活を心がけ、生活の中で生きがいや充実感を感じており、現在の生活に満足している。人間関係や活動、社会・環境への関心は、他のタイプに比べ、やや消極的である。

タイプ4は、地域や社会のための活動に参加したり、人とコミュニケーションをとること、趣味や遊びにお金をかけるなどに消極的である。全体的に意識が低いが、購入したいものはなく物質的に満足しており、生活の満足度は、他のタイプと同様に高い。

各タイプの特徴を着装意識と生活意識から、次のようにまとめることができる。

タイプ1は、ファッション意識が大変高く、衣生活行動に関する意識も高い。人付き合いにおいて目立って活発で外向的である。着装意識、生活意識ともに積極的である。

タイプ2は、ファッション意識がやや高く、機能性を考えた自分らしい服を着装する。生活意識は全体的に活動的で外向的である。着装意識、生活意識ともにやや積極的である。

タイプ3は、社会性を重視して着装する。生活には、充実感をもち、満足しているが、人付き合いや社会に対して、やや内面的な面がある。衣生活の満足度は低い。やや消極的タイプである。

タイプ4は、実用性を重視して着装する。物質的満足度は高いが、全般的に消極的である。

3) タイプ別構成状況

タイプ別人数をみると、男性のタイプ3に35.3%が所属し一番多い。タイプ1は29.5%、タイプ2は15.8%、タイプ4は19.4%である。女性については、タイプ2に62.1%が所属し多い。タイプ1は20.0%、タイプ3は7.9%、タイプ4は10.0%である。

男性・女性間を比較すると、社会性重視タイプ、実用性重視タイプ、自己表現重視タイプは共通する。男性の「他人を意識し自己演出するタイプ」、女性の「ファッション意識が高く、積極的タイプ」に差異がある。女性はよりファッション情報や流行に敏感、男性は他人を強く意識して着装しているところに特徴がある。

着装意識が活発なタイプは生活意識も高く、特に人付き合い、コミュニケーション、身の回りの物への個性・好みの反映においてタイプ別の差が認められる。着装意識と生活意識は相関があり、生活の充実感・満足感に衣生活は深く関与している。

6. 「衣生活の満足感」「生活の満足感」の関わり

自分の衣生活の満足感、生活の満足感を4段階評価でみると図3となる。衣生活に満足している（ややそう思うを含む）のは男性79.8%、女性77.2%、生活に満足しているのは男性82.7%、女性90.0%であり、衣生活より生活の満足感が高く、生活の満足感には女性が有意に満足度が高い。衣生活満足感と生活満足感の関係をクロス集計した結果（図4）、0.1%水準で有意差が認められた。

さらに、男女各4タイプと生活の満足度との関係をみると（図5）、男性では、着装意識の積極的なタイプほど生活の満足感を強く感じている。女性には、顕著な関係が見られない。

「衣生活の満足感」「生活の満足感」に関わる意識項目を数量化Ⅱ類により具体的に探ると

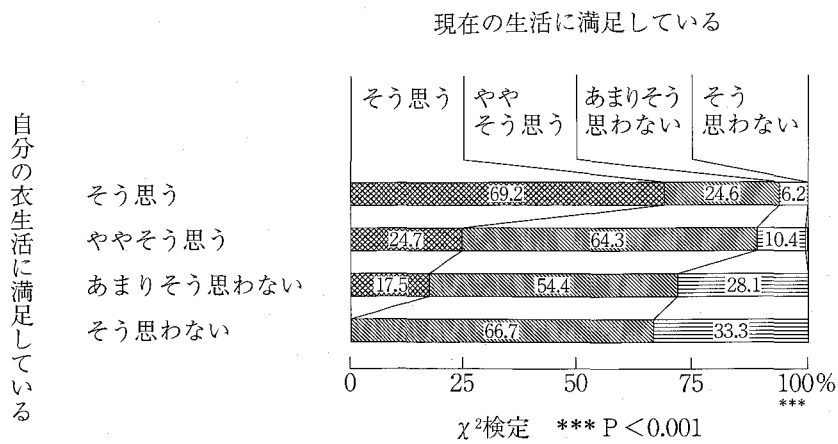


図4 衣生活満足感と生活満足感のクロス集計結果 (全体)

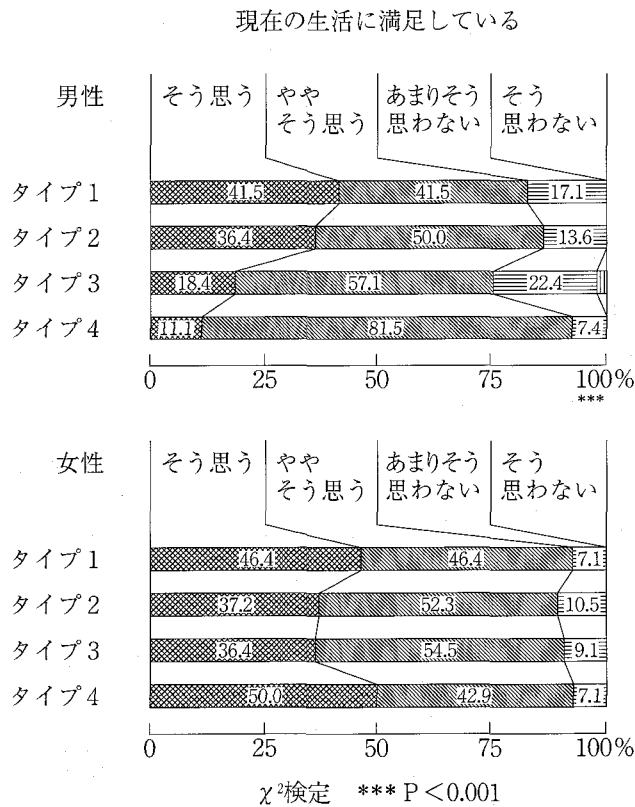


図5 タイプ別にみる生活満足度 (男女別)

表5, 6となる。

衣生活の満足感に関わっている着衣意識は、男性9項目、女性12項目である。

男性は、他人の服装を気にかけ、社会的なふさわしさを考える意識、衣服にお金をかけ、サイズの面で容易に衣服を購入できる環境、ファッションへの興味意識が関わっている。

女性は、人と服装の同調を望まない意識、女らしい服装、衣服にお金をかけ、着たい服の入手が容易な環境、取り扱いやすさは気にしないが、計画的に購入し、不用衣類を活用し、今後ともおしゃれを楽しみたいという意識が関わっている。

表5 「衣生活に満足している」と関係ある着装意識・生活意識項目
—数量化Ⅱ類分析結果—

着 装 意 識 項 目		カテゴリー
男 性	服装から人を判断することがある	○
	自分にあうサイズの服が入手しにくい	×
	いつも(男,女)らしい服装を心掛けている	○
	年齢にあさわい服装(色・柄・デザインなど)を心掛けている	○
	新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	○
	雑誌やテレビなどメディアからのファッション情報をよく見ている	○
	服の色に関心がある	×
	衣服に対して、お金をかけているほうである	○
	自分の服装の好みが決まっている	×
女 性	人と同じような服装をしていると安心する	×
	衣服に対して、お金をかけるほうである	○
	取り扱いが簡単なものを選ぶ	×
	不用になった衣類を自分なりに活用している	○
	服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	×
	自分が着たい服が入手しにくい	×
	いくつになってもおしゃれを楽しみたい	○
	いつも(男,女)らしい服装を心掛けている	○
	計画的に衣服を購入する	○
男 性	新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	○
	自分の服装の好みが決まっている	○
	着心地のよいものを着るようにしている	○
	生活意識項目	カテゴリー
男 性	現在の生活に満足している	○
	身の回りのものに個性や好みを反映させている	○
	規則正しい生活を心掛けている	○
	趣味や遊びにお金や時間をかけている	×
	友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうである	○
	環境問題に対してできることから取り組んでいる	×
	物質的に満足している	×
女 性	人とコミュニケーションをとることが好きである	○
	身の回りのものに個性や好みを反映させている	○
	世の中の動きに興味がある	×
男 性	心許せる人(家族・友人など)がいる	○
	友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうである	○

注 関係あるカテゴリー：○そう思う ×思わない

表6 「生活に満足している」と関係ある着装意識・生活意識項目
—数量化Ⅱ類分析結果—

生 活 意 識 項 目		カテゴリー
男 性	物質的に満足している	○
	ゆとりがあり心が豊かな生活をしている	○
	人とコミュニケーションをとることが好きである	×
	趣味や遊びにお金や時間をかけている	○
	世の中の動きに興味がある	×
	環境問題に対してできることから取り組んでいる	×
	普段の生活の中で生きがいや充実感を感じるほうである	○
	友人、仲間、近所の人との付き合いは多いほうである	○
	地域や社会のための活動に参加したい	○
女 性	自分の納得のいく生き方をしている	○
	物質的に満足している	○
	ゆとりがあり心が豊かな生活をしている	○
	普段の生活の中で生きがいや充実感を感じることがある	×
	身の回りのものに個性や好みを反映させている	×
	自分の健康のために、生活の中に運動・スポーツ活動を取り入れている	○
	人とコミュニケーションをとることが好きである	×
	規則正しい生活を心掛けている	×
	生きがいにつながる文化・スポーツ活動をしている	×
着 装 意 識 項 目		カテゴリー
男 性	個性的なものを着るほうである	×
	衣服に対して、お金をかけるほうである	○
	自分の服装の好みが決まっている	○
	自分の衣生活に満足している	○
	他人からほめられたり、うらやましがられたりする服が着たい	×
	手入れや保管に気を使う	×
	不用になった衣類を自分なりに活用している	×
	違う自分が演出できる服装をしてみたい	○
	自分が着たい服が入手しにくい	×
女 性	自分らしい服を着たい	○
	流行の服をよく着るほうである	×
	着回しのきく服を購入する	○
	新しいタイプの服にチャレンジしてみたい	○
	着脱しやすい服を好む	○
	色の組合せを楽しんでいる	×
	流行の服をよく着るほうである	○
	衣服に対して、お金をかけるほうである	○
	服装によって気分が変わる	○
男 性	自分の衣生活に満足している	○
	時間・場所・目的にあった服を着るよう心掛けている	○
	手入れや保管に気を使う	×
	服装によって、若く見せたり大人っぽく見せたりしている	×
	自分の服装の好みが決まっている	○
女 性	丈夫で長く着用できるものを選ぶ	○
	不用になった衣類を自分なりに活用している	○

注 関係あるカテゴリー：○そう思う ×思わない

男女の共通点は、衣服にお金をかけ、購入の際に入手しやすい状況、男・女らしい服装を心掛ける意識、差異は、男性は、年齢のふさわしさや他人意識、女性は、長期的な被服の活用と楽しさという点である。「着装の楽しさ」に関わる項目と比べると、衣生活行動に関する内容が多くなっている。

衣生活の満足感に関わっている生活意識は、男性7項目、女性5項目である。

男性は、生活の満足感と深い関わりがある。他に、身の回りのものへの個性・好みの反映、規則正しい生活、人付き合いなど、女性は、人間関係の関わりが強い。男女に共通するのは、自分以外のものや人に関わる余裕を持っていることである。

生活の満足感に関わっている生活意識は、男女とも9項目である。

男性は、物質的な満足感、自分の生き方や充実感、趣味や遊びにお金や時間を使い、人とのコミュニケーションや世の中の動き・環境問題には、やや興味を持たない意識が関わっている。

女性は、納得のいく生き方、物質的な満足感、心豊かな生活等には肯定的に関わっているが、身の回りへの個性・好みの反映、規則正しい生活、生きがいにつながる文化・スポーツ活動等の具体的な内容には否定的に関わっている。

男女とも物質的な満足感共通するが、精神的な満足感ではそれぞれ違った意識が関係している。

生活の満足感に関わっている着装意識は、男性13項目、女性12項目と多い。価値観が多様化し、生活の満足感を左右する着装意識、生活意識の多様化が認められる。

7. 高齢者と大学生の比較

1) 着装意識について

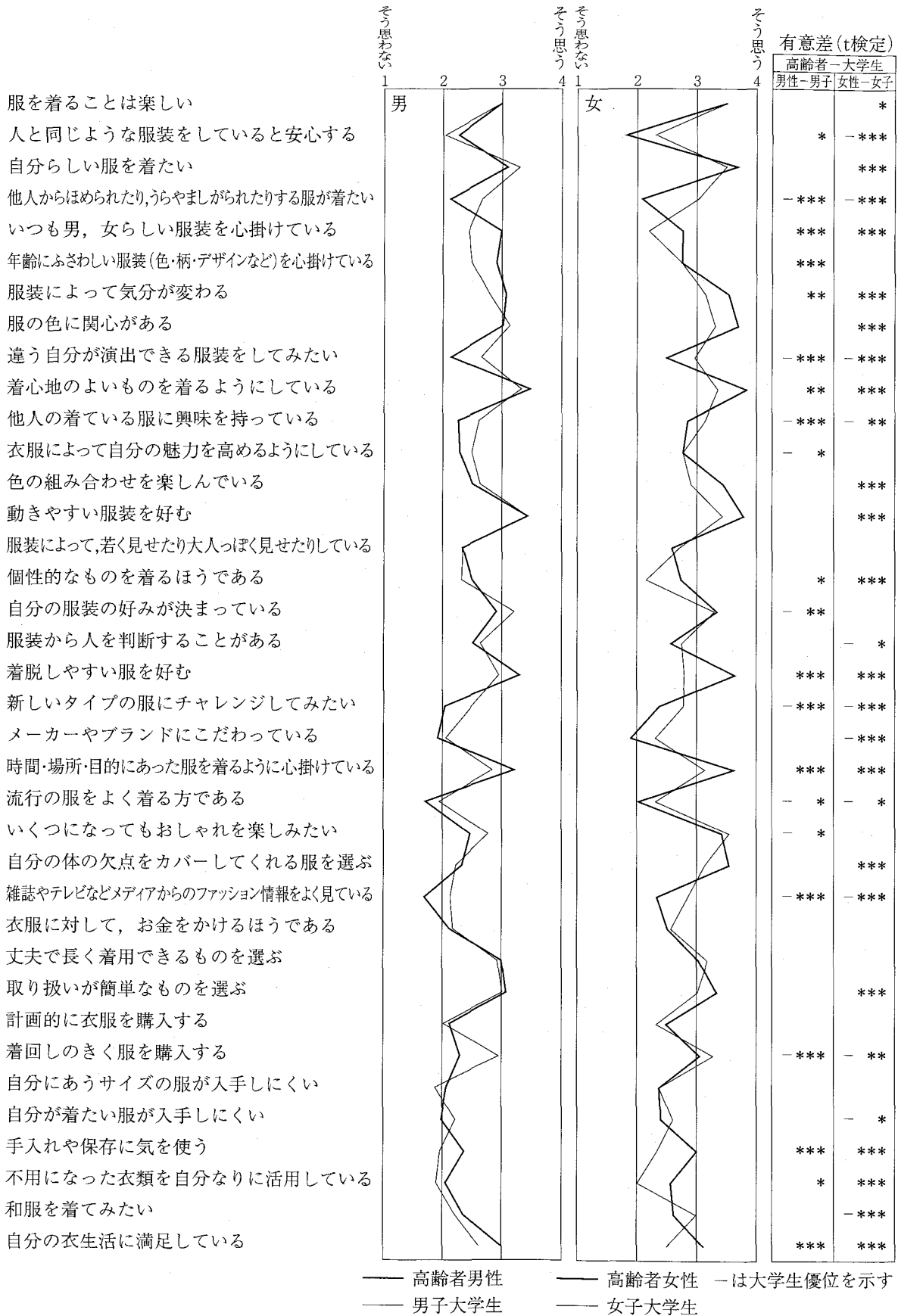
高齢者と大学生の意識の特徴と差異をみるため、以上の高齢者に関する結果と「大学生の着装意識と生活意識の関連」⁶⁾で明らかにした内容と比較検討する。着装意識と生活意識項目の高齢者・大学生男女の平均値と男女別有意差t検定結果を示したのが図6、7である。

高齢者男性と男子学生の着装意識は、ともに、自分らしい服装や色に対する関心、着装の楽しさ、動きやすさ・丈夫さを好む意識が高く、メーカーやブランドへのこだわり、購入時のお金のかけ方・計画性、入手のしにくさ、和服に関する意識が低い。有意差が認められた21項目からは、服装による気分、個性的な服装、男らしさ、社会的ふさわしさ、着心地・着脱のしやすさ、手入れ・保管、衣生活の満足度において、高齢者男性が優位であり、他人意識、好み、自己演出、流行・新しいタイプの服の探究、ファッション情報の入手、着回しにおいて男子学生が優位である。

高齢者女性と女子学生では、ともに、好みや着装の楽しさ、丈夫さで長く着用できるものを選ぶ意識が高く、購入の計画性や求めるサイズの服が入手しにくいという意識は低い。有意差の認められた28項目からは、女らしさ、自分らしさ、個性的な服装、T・P・O、着装の楽しさ、実用性、身体欠点のカバー、手入れ・保管・不用衣類の活用、衣生活の満足度において、高齢者の女性が優位であり、同調性・他人意識、自己演出、メーカー・ブランド・流行、ファッション情報の入手、着回し、和服意識で女子学生が優位である。

男性では、高齢者、大学生ともに自分らしさ・実用性を考えて着装するが、社会性・実用性の意識が上回るのが高齢者、他を意識し、おしゃれ感の上回るのが男子学生である。女性で

高齢者の着意意識と生活意識の関連



*** P < 0.001 ** P < 0.01 * P < 0.05

図6 着意意識の高齢者と大学生間比較 (男女別)

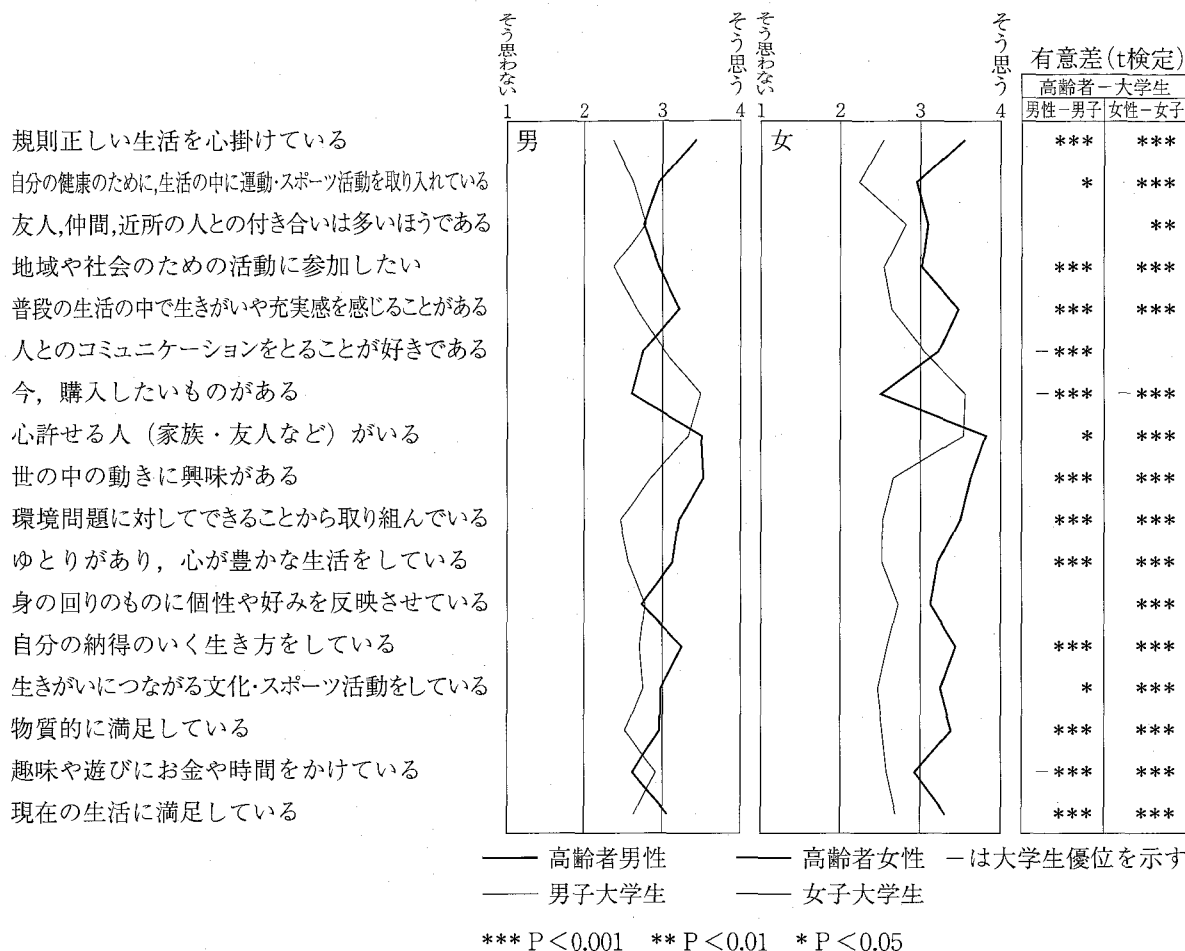


図7 生活意識の高齢者と大学生間比較（男女別）

は、周囲を気にし、よく見られようと着装するのが女子学生、自分らしく楽しんで着装し、その後の衣類の取り扱いまで考えるのが高齢者である。

2) 生活意識について

男性では15項目、女性では16項目に有意差がみられ、ほとんどの項目で高齢者が優位である（図7）。有意差のない項目及び学生が優位な項目から、男性において、人間関係に関する項目で学生の意識に活発さが見られる。「今、購入したいものがある」は、男女共、大学生の意識が高い。「趣味や遊びにお金や時間をかけている」のは、男性では大学生が、女性では高齢者が優位である。全体的にみて、高齢者の方が、今の生活に充実感や満足感を感じ、あらゆることに興味を持ち、働きかけて、積極的であり、生活意識が極めて高い。

3) 「着装の楽しさ」に関わる意識

「服を着ることは楽しい」と大学生男子は69.6%、女子は89.8%、高齢者男性は69.8%、女性は93.6%が意識している。男女とも意識が高く、女性、特に高齢者女性の意識が高い。高齢者男性も大学生男子と同じに意識が高い。

「服を着ることは楽しい」に関わる着装意識は、男性では、高齢者13項目、学生6項目、女性では、高齢者12項目、学生5項目である。男性は他人意識や服色への関心、自分らしく、おしゃれを楽しむ意識が共通している。高齢者はさらに被服の入手に関する意識が関わる。女性は服色への関心、変化を求めず自分らしく、おしゃれを楽しむ意識が共通している。高齢者は

高齢者の着装意識と生活意識の関連

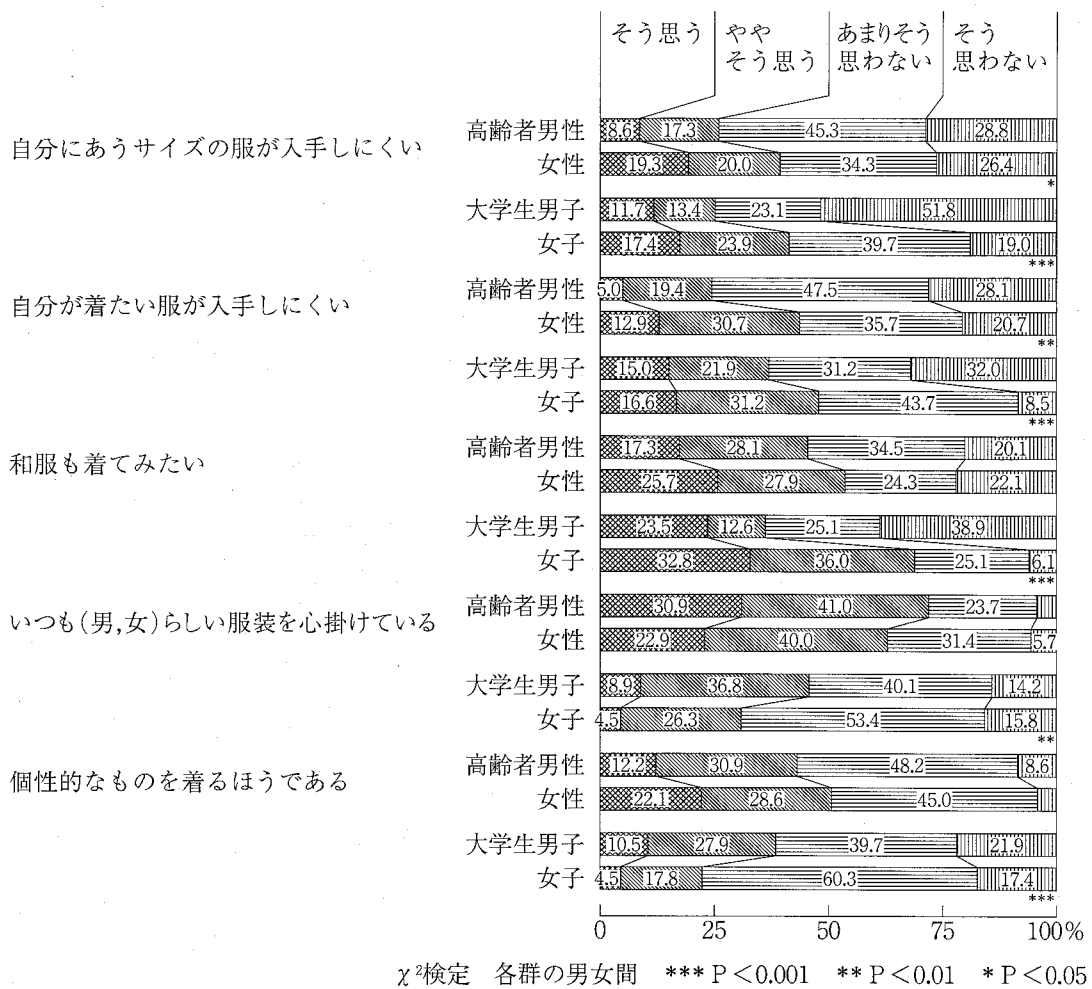


図8 着装意識の4段階評価結果(高齢者・大学生の男女別)

さらに入手の容易さが関わっている。男女とも高齢者の方に関わる要因が多い。

4) 着装意識の具体的内容

具体的内容について、4段階評価結果から比較してみると図8となる。

「服の入手の困難さ」については、他の項目との比較で、平均値から判断するとそれ程高くない。しかし、入手しにくい(やや入手しにくいを含む)と思っているのは、「自分にあうサイズの服」については、高齢者男性25.9%、女性39.3%、大学生男子25.1%、女子41.3%、「着たい服」については、高齢者男性24.4%、女性43.6%、大学生男子36.9%、女子47.8%である。自分にあうサイズの服の入手困難さについては、高齢者・大学生間の差はあまりなく、着たい服の入手困難さは大学生がやや高いという結果である。高齢者、大学生ともに身体特徴や着装観の個人差の結果と考えられる。ただ、高齢者は、さらに、加齢に伴い、個人差が大きくなっていくので、多様な選択肢が用意される必要がある。

日本の伝統衣装「和服」の着装希望は、大学生女子の意識が高い。日常生活においても、まだまだ和服着用の機会があった時代を体験してきた高齢者よりも、日常生活から和服着用が消えた時代に育った若者の方が、和服に好意を示している。若者にとって和服は、洋服に対応する衣服というよりも、多様な着装体験をし、自己表現する服種の一つとして、気楽に、生活の中に組み込み、衣生活を多様で、楽しいものにしていく一つに位置づけている⁸⁾と考えられ

る。

「男・女らしい服装」を心掛けているのは、大学生男子45.7%、女子30.8%に対し、高齢者男性71.9%、女性62.9%である。高齢者男性は男らしい服装を、高齢者女性は女らしい服装を心掛け、高齢者の服装による性役割意識は極めて高いといえる。これは生きてきた世相の違い、体験の差の反映と考えられよう。首都圏に住む中年女性（45～54歳）を対象としたアンケート⁹⁾で「年齢を感じながらも女性らしくいたい」の意識が浮き彫りになっている。高齢者においては、「年齢を感じながらも、男らしく、女らしくいたい」と自分の服装に思いを托していると考えられる。

「個性的な服装」をするのは、大学生男子38.4%、女子22.3%であるに対し、高齢者男性43.1%、女性50.7%であり、高齢者の意識が高い。高齢者は長い生活体験から、自分の服装形態や好みの服装が定着してきていると考えられる。

5) 着意意識の類型化、生活意識との関連

(1) 男性

高齢者4タイプ、大学生5タイプに分類することができ、類似したタイプが3グループある。

高齢者のタイプ2と学生のタイプ1は、自分らしさを重視して着装し、服にお金をかけ、何事にも積極的である。しかし、流行やメーカー・ブランド意識が学生は高いが高齢者は低いところに違いがある。

高齢者のタイプ3と学生のタイプ2は、機能性重視で着用し、ファッション意識は低く、健康に気を使うが社会や人間関係には消極的である。

高齢者のタイプ4と学生のタイプ4は、他と同調することで安心し、ファッション意識が低く、人間関係・活動において消極的であるが、生活に満足している。しかし、高齢者は、男らしさ・年齢のふさわしさを考えるが、学生は考えない、高齢者は、生きがい・充実感など精神的に満足しているが、学生の割合は低いというところに違いがある。

他に、高齢者には、周囲の評価を気にしてファッションを楽しむタイプ（タイプ1）、学生には、自分らしい服を着たいがおしゃれをしてないタイプ（タイプ3）、自分らしい個性的なおしゃれをするタイプ（タイプ5）があり、世代間の特徴がでていいる。男性の場合、高齢者も学生も、ファッション意識の高低だけでなく、タイプの特徴が多様化しており、おしゃれ意識が高い学生と生活意識が高い高齢者の差が現われている。

(2) 女性

高齢者4タイプ、大学生3タイプに分類することができ、類似タイプは次の2グループである。

高齢者のタイプ1と学生のタイプ1は、おしゃれに積極的で衣生活全体にしっかりとした意識を持っており、人付き合いを好み、外向的で活発なタイプである。

高齢者のタイプ4と学生のタイプ3は、機能性重視でファッション意識が低く、生活意識は消極的であるが、生活には満足しているタイプである。

他に、高齢者には、自分らしさを追求するタイプ（タイプ2）、社会的なふさわしさ・他人意識を気にするタイプ（タイプ3）がある。学生の、他人を意識し自分らしい服を着たいタイプ（タイプ2）は、高齢者のタイプ2と3の特徴を持ち合わせている。女性では、タイプ別のファッション意識の高低が顕著に見られ、生活意識との関係では、圧倒的に高齢者の意識が高

い。

6) 「衣生活の満足感」「生活の満足感」の関わり

衣生活の満足感に関わるのは、男性では、高齢者9項目、学生8項目である。高齢者は社会的なふさわしさ、入手の環境、他人の服への興味、ファッションへの興味関心であり、学生は流行や他人の評価である。共通項目はなく、共通点はみられない。

女性では、高齢者12項目、学生4項目と高齢者の方が要因となる項目数が圧倒的に多い。共通する項目は、入手の容易さのみであり、それ以外の共通点はみられない。

生活の満足感に関わるのは、男女とも高齢者9項目、学生3項目である。学生の生活満足感に関わる、「物質的な満足感」「心豊かな生活」「納得のいく生き方」の3項目が高齢者の上位項目とほぼ一致する。高齢者も学生も男女とも「生活の満足感」を左右する意識は共通しており、さらに、加齢に伴い、他の意識も関わってくるといえる。

IV 要約・結論

高齢者の着装意識と生活意識の特徴と関連性について明らかにするため、松山市在住の高齢者(60歳~70歳)男女279人を対象に調査を行ない、大学生の意識とも比較した結果、次のことが明らかになった。

1. 高齢者の着装意識は、着心地のよさ、動きやすさ、着脱のしやすさなど機能性を第1に重視している。T・P・Oをわきまえた服装、自分らしい服装を楽しみ、流行やブランドへの関心は薄い。合うサイズの服、着たい服の入手はそれほど困難でないという状況である。

男性は人と同じような服装で安心し、性別や年齢のふさわしさを考え、女性は着装意識が高く、被服の着装を楽しんでいるところに特徴がある。

2. 生活意識は、全体的に非常に高く、男女とも心許せる人がいて世の中に興味を持っており、規則正しい生活を心掛けている。物質・精神面共に、充実感・満足感があり、ゆとりのある生活をしている。コミュニケーション・人付き合い・心許せる人がいるという人間関係、生きがいや充実感、物質的な満足感、身の回りのものへの個性や好みの反映において男女差があり、女性が上回る。

3. 「着装の楽しさ」に関わるのは、男女とも自分らしい服を着たいという意識、服色に対する関心とお金をかけることである。実用性についての関わりは低い。特に、男性では他人に対する意識、女性では自分を中心とした意識が特徴となっている。

生活面では、男性は人とコミュニケーションをとり、運動・スポーツ活動に活発な活動的な面が、女性は納得のいく生き方をし、身の回りのものへの個性や好みを反映させ、社会活動に参加したいという内面的充実が関わっている。

4. 着装意識に対する反応の数量化Ⅲ類による分析結果から、ファッション追求性-機能性、社会性-個性の2軸が析出され、クラスター分析の結果、男女それぞれ4タイプに分類された。

5. 着装意識と生活意識の関連から各タイプの特徴は次のようになる。

男性は、他人意識が高く着装を楽しみ、周囲にも興味・関心を持つ積極的タイプ、自己表現重視で着装を楽しみ、自分の精神的充実を大切にするタイプ、機能性重視で着装し、着装・生活意識がやや消極的タイプ、実用性・社会性を考えて着装し、着装・生活意識とも消極的なタ

イブである。

女性は、ファッション意識が高く、おしゃれを楽しみ、生活意識にも積極的タイプ、自己表現重視でおしゃれを楽しみ、生活意識も積極的タイプ、社会的ふさわしさ・周囲との調和を重視し、人間関係や社会環境への関心はやや消極的タイプ、機能性重視で着装し、地域・社会への参加、人間関係などに消極的なタイプである。

男性は機能性重視で、女性は自己表現重視で着装するタイプに所属する者が多い。

6. 着装意識が積極的なタイプは、生活意識も高い。特に、コミュニケーションや活動、身の回りのものへの好みの反映、趣味や遊びへの対応において明らかな差異がある。男性の他人意識重視でおしゃれを楽しむタイプは、より外へ向いた生活意識を示し、自己表現重視でおしゃれを楽しむタイプは心の内面を充実する方向へ積極性を示している。男性の着装意識が積極的なタイプほど、生活の満足感が強い。

7. 衣生活の満足感に関わるのは、男女とも着る服の入手が容易な状況、服装に性差を心掛ける意識である。特に男性は年齢のふさわしさや他人意識、女性は長期的な被服の活用と着装の楽しさに関わり、衣生活行動に関する内容がやや多い。生活意識とは、男性の生活の満足度、女性の人間関係の活発さが関わっている。

8. 生活の満足感に関わるのは、男女とも物質的満足感と心豊かな生活である。他にも多数の意識に関わり、価値観の多様化、生活の満足感を左右する意識の多様化が認められる。

9. 高齢者と大学生の意識の比較

1) 男性では、高齢者も大学生も服装の自分らしさ、実用性に関する意識が高く、メーカー・ブランド、被服の購入に関する事、和服に対する意識は低い。高齢者は社会性・実用性、学生は他人意識とおしゃれ感で上回る。

女性では、高齢者も大学生も服装の好みや楽しさ、丈夫さに関する意識が高く、購入に関する事への意識が比較的低い。高齢者は自分らしさ、個性的服装、楽しさ、衣類の取り扱い、学生は他人意識と自己演出の意識で上回る。

2) 高齢者の生活意識が高く、高齢者は生活に満足感・充実感を感じている。「今、購入したいものがある」のは男女とも学生、「趣味や遊びにお金や時間をかけている」のは、男性では大学生、女性では高齢者が優位である。

3) 「服を着ることは楽しい」と高齢者男性も大学生男子と同様に高く意識し、高齢者女性は大学生女子より、さらに意識が高い。「着装の楽しさ」に関わるのは高齢者、学生とも共通して、他人意識、服色への関心、自分らしく、おしゃれを楽しむ意識であり、さらに高齢者は被服の入手に関する意識が加わる。

4) 「服の入手の困難さ」を特に高齢者が強く感じているのではない。「和服」の着装希望は大学生女子が、「男・女らしい服装」「個性的な服装」をする意識は、高齢者の方が高い。

5) タイプを比較すると、男性では、自分らしさ重視タイプ、機能性重視タイプ、同調性重視タイプが共通する。他に、高齢者では、他人意識・自己演出タイプ、学生では、自分らしさ重視消極的タイプ、個性的タイプである。高齢者も学生もファッション意識の高低だけでなく、タイプの多様化が見られる。

女性では、おしゃれタイプ、機能性重視タイプが共通する。他に、高齢者では、自分らしさ重視タイプ、社会性・他人意識タイプ、学生では、他人意識・自分らしさタイプに特徴がある。男性に比べ、ファッション意識の高低が顕著に見られる。

6) 「生活の満足感」に関わりの強いものは、高齢者、大学生とも「物質的な満足感」「心豊かな生活」「納得のいく生き方」であり、世代間の差は見られない。高齢者は、さらに関わる生活意識が多い。

一般に、おしゃれ、ファッションという若い世代において積極的であると思われがちであり、これまで高齢者の服装は地味というイメージが強かった。しかし、今回の調査結果から、驚くほど高齢者のファッション意識が高いことが明らかとなった。学生と比較しても自己演出の面では下回るが、機能性や自分らしさを楽しむ意識では上回る。特に、高齢者女性は、女子大学生より服色に対する関心や色の組合せに対する意識が強い。高齢者は、自分らしく、個性的な服装をして、着装行動を楽しむ意識が高い。

また、着装意識と生活意識に相関がみられた。高齢者においても、着装意識が積極的である人は、生活意識も高い。特に、生活活動や人付き合い等の意識が高く、外向的で活発である。地域や社会とつながりを持つことは、身体機能の低下を遅らせ、生きがいや充実感へ好影響をもたらすと考えられる。

さらに、衣生活の意識の多様化が感じられ、単純にファッション意識が高いだけでなく、他人意識の高いファッションへの積極性や自己表現意識の高いファッションへの積極性があり、生活意識とも関わって多角的な意識の状況が明らかになった。

昨今、高齢社会に突入し寿命が延び、第2の人生をどう過ごすかは大きな意味を持つようになってきている。豊かな高齢期を迎えるために衣生活の面から働きかけが可能であることが明らかとなった。高齢者がおしゃれ感を十分に発揮することは生き生きとした生活を創ることにつながる。その生きる意欲や前向きな姿勢は、身体機能の低下をカバーできると考える。加齢に伴い、高齢者は身体的にも精神的にも個人差が大きくなる。価値観の多様化する中、一人ひとりが好きなものを選択し、自由に組み合わせ、自分らしく自己表現し、個性的に装い、豊かな人間性と調和する衣環境がさらに整備され、高齢者がいきいきと主体的に生活していける社会を望みたい。

終わりに、アンケートにご協力下さいました皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 総務庁の調査による。高齢者率16.2%過去最高を更新—1998年9月15日付日本経済新聞
- 2) 鮎田崎子・前場貴子 人体計測値による体格・体型の研究(2)—中高年齢期の変化と特徴— 愛媛大学教育学部紀要 第I部教育科学 第44巻 第1号 145~164 (1997)
- 3) 鮎田崎子・徳吉克子・宮内朋子 人体計測値による体格・体型の研究(4)—中高年齢期の変化と特徴(2)—衣服・靴・家具とのかかわりを中心にして— 愛媛大学教育学部紀要 第I部教育科学 第45巻 第1号 149~173 (1998)
- 4) 社団法人日本家政学会 日本人の生活—50年の軌跡と21世紀への展望— 建帛社 167~172 (1998)
- 5) 小澤洋子 装いは生きるよろこび 福祉文化ライブラリー 6~8 (1991)
- 6) 鮎田崎子・宮崎陽子 若者の着装意識と生活意識の関連—男子・女子大学生の場合— 愛媛大学教育学部紀要 第I部教育科学 第46巻 第2号 149~167 (2000)
- 7) 柳洋子 ファッション化社会史 ぎょうせい 188~248 (1989)
- 8) 鮎田崎子 若者の和服に関する意識と行動 日本衣服学会誌 Vol.37 No.2 28~39 (1994)
- 9) 女性団体「ザ・ファッショングループ」の調査結果—平成10年10月20日付愛媛新聞